

「エリシャ」
聖徒伝 125

「生きておられる 神のしるし」

列王記第二 3～4章

預言者エリシャの奇跡

アウトライン

0. イントロダクション

I. ヨラム王の戦い 3章

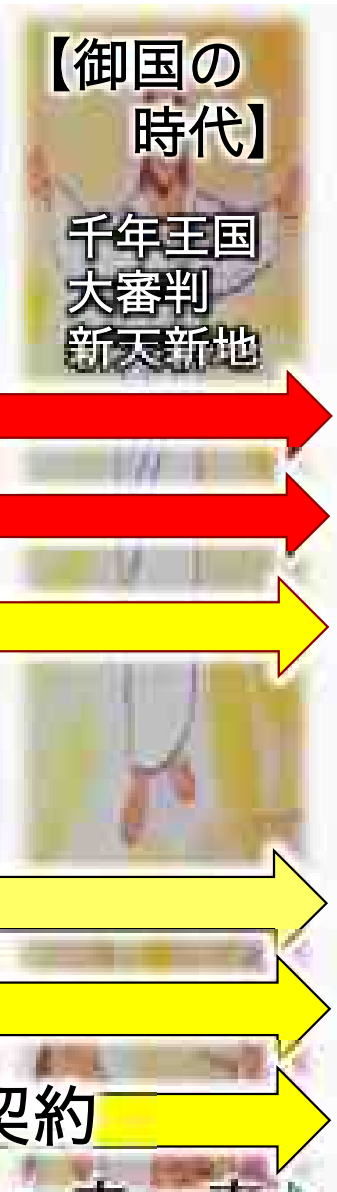
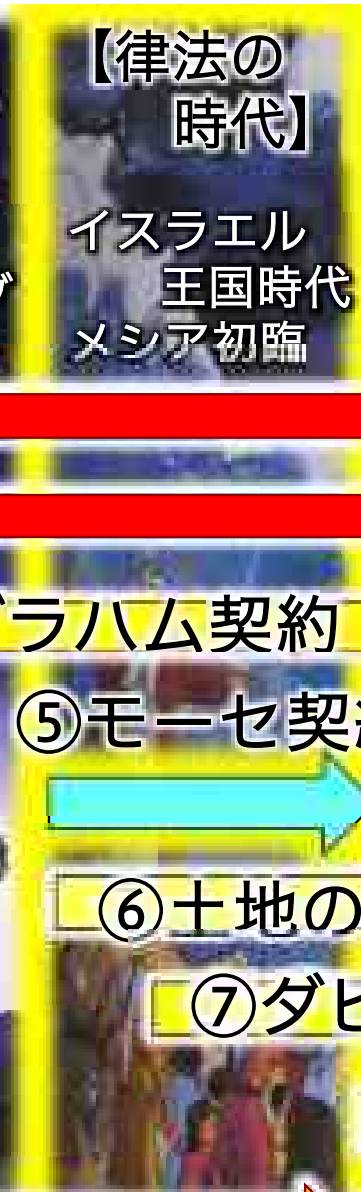
II. エリシャの4つの奇跡 4章

III. まとめと適用

メシアの王国の幻を抱こう



エドムの地



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

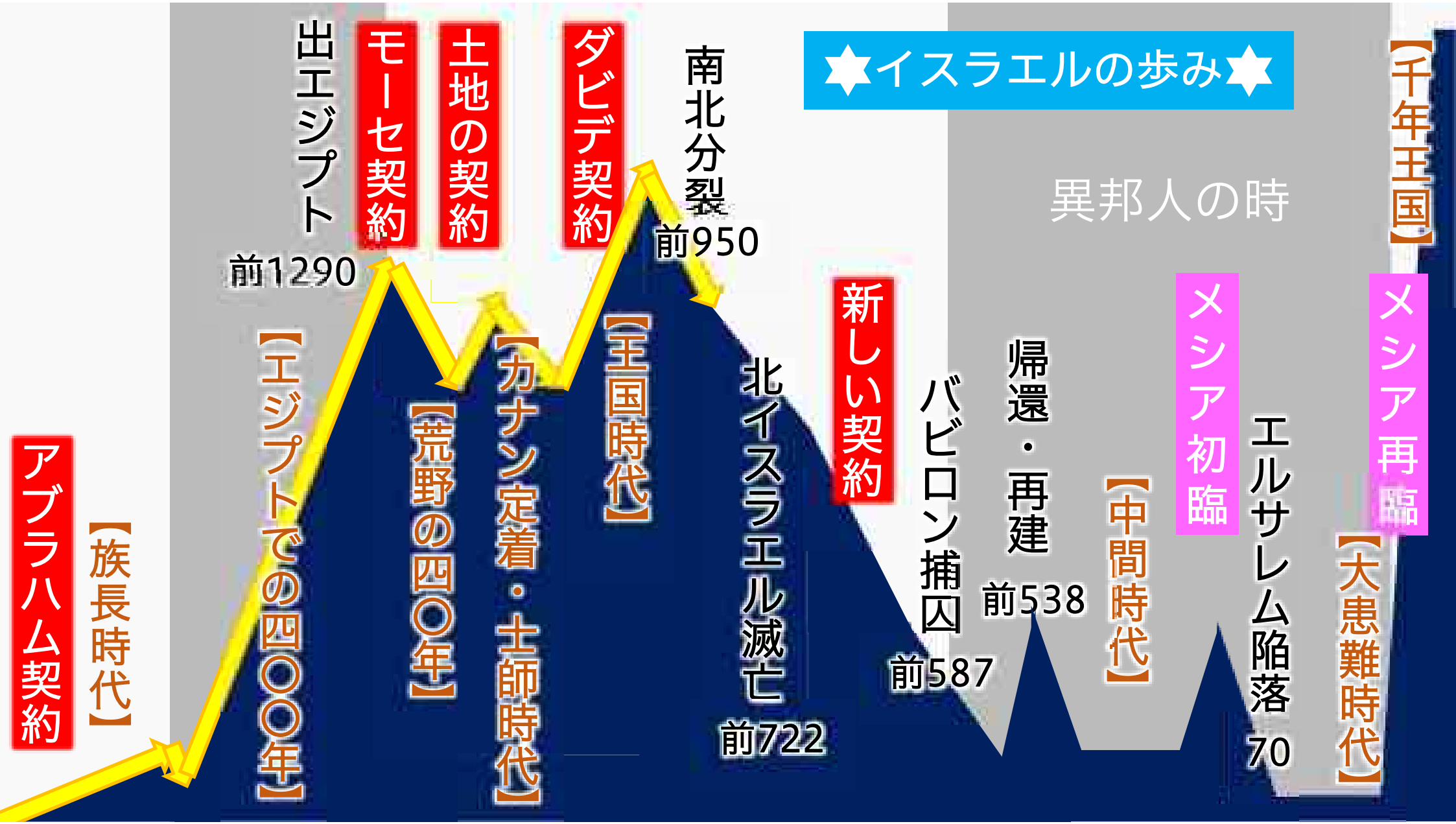
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

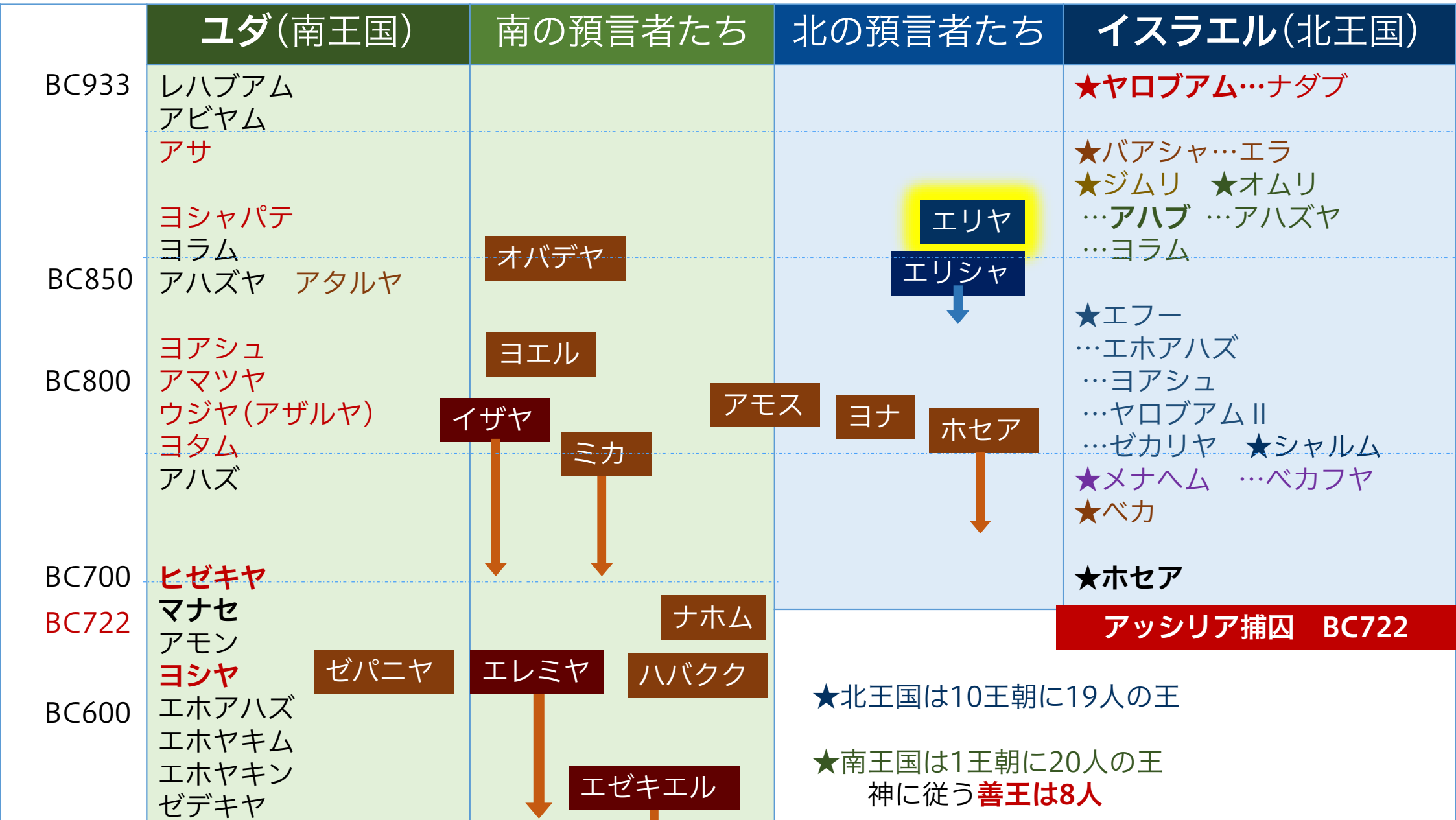
★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

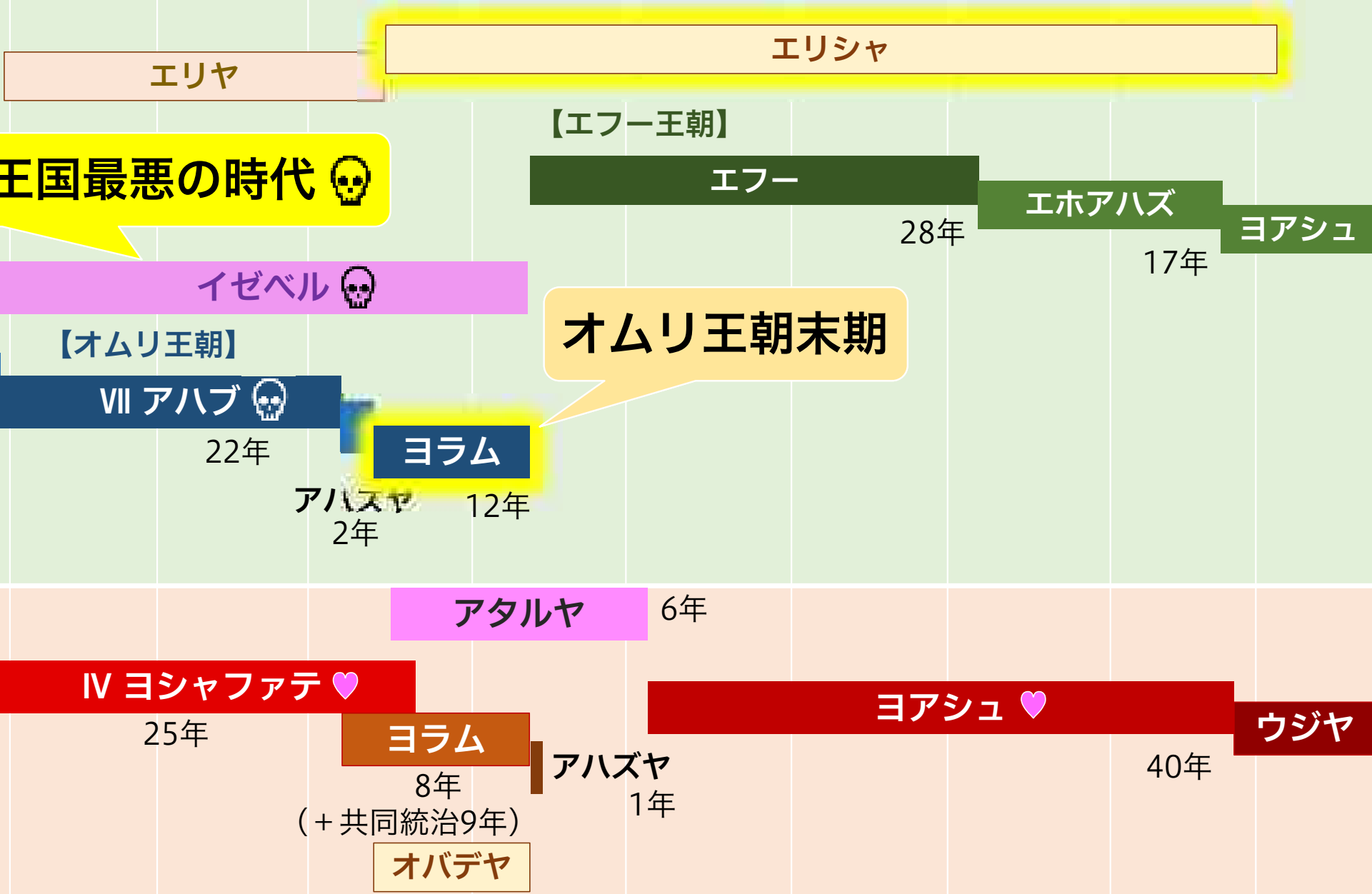
第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王



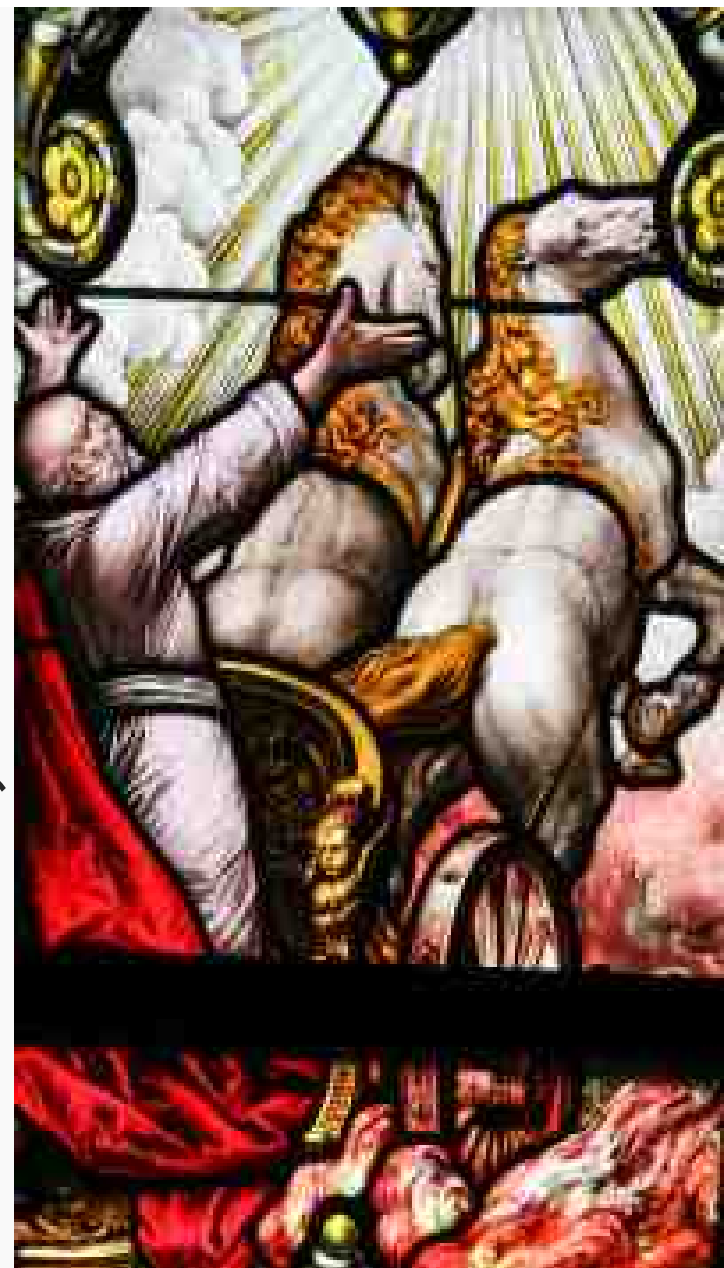
北王国 イスラエル

南王国 ユダ



【エリヤとエリシャ】 II 列王記

- 孤独な戦いの末、危機に陥ったエリヤを主は励まし、イスラエルの残れる信仰者の存在を教え、後継者に**エリシャ**を指名した。
- エリヤが組織した預言者学校で**エリシャ**も学んだ。**エリシャ**は、エリヤの携拳を目撃し、その後、エリヤの正当な後継者となった。
- 混迷を増す北王国で、預言者**エリシャ**の活動が本格的に開始されていく。





Ⅰ. ヨラム王の戦い

列王記第二 3章

エドムの山地

【北王国9代目の王ヨラム】 Ⅱ 列王記3:1～3

アハブの子ヨラム*は、ユダの王ヨシャファテの第十八年に、サマリアでイスラエルの王となり、十二年間、王であった。

彼は【主】の目に悪であることを行ったが、彼の父母ほどではなかった*。彼は、父が作ったバアルの石の柱を取り除いた。しかし彼は、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪に執着し、それから離れることがなかった*。

*“ヤハウエは高貴な方”

*アハブやアハズヤの悲惨な死が影響したか？

*根底は変わらず、偶像礼拝の道を進む。



【ヨシャファテへの誘い】 Ⅱ 列王記3:4~7

さて、モアブの王メシャは羊を飼っていて、子羊十萬匹と、雄羊十萬匹分の羊毛をイスラエルの王に貢ぎ物として納めていた。しかしアハブが死ぬと、モアブの王はイスラエルの王に背いた。

そこで、ヨラム王はその日にサマリアを出発し、すべてのイスラエル人を動員した。

そして、ユダの王ヨシャファテに人を遣わして言った。「モアブの王が私に背きました。私と一緒にモアブに戦いに行ってくださいませんか。」

ユダの王は言った。「行きましょう。私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです。」

再び北王国とつるむヨシャファテ!!



【困窮した連合軍】 Ⅱ 列王記3:8～10

そして言った。「どの道を上って行きましょうか。」するとヨラムは、「エドムの荒野の道を」と答えた。

こうして、イスラエルの王は、ユダの王とエドムの王と一緒に出かけたが、七日間も回り道をしたので、陣営の者と、後について来る動物たちのための水がなくなった。

イスラエルの王は、「ああ、【主】がこの三人の王を呼び集めたのは、モアブの手に渡すためだったのだ」と言った。

自分の無計画は棚に上げて うまくいかないのは神のせい!!



【エリシャ】 Ⅱ列王記3:11～12

ヨシャファテは言った。「ここには、【主】のみこころを求めることができる【主】の預言者はいないのですか。」すると、イスラエルの王の家来の一人が答えた。「ここには、シャファテの子エリシャ*がいます。エリヤの手に水を注いだ*者です。」

ヨシャファテが、「【主】のことばは彼とともにあります*」と言ったので、イスラエルの王と、ヨシャファテと、エドムの王は彼のところに下って行った。

*エリシャは、主に示されて同行していたのだろう

*仕えていた *真の預言者ということ



【エリシャの答え】 Ⅱ列王記3:13～14

エリシャはイスラエルの王に言った。「私とあなた
の間に何の関わりがあるのでしょうか。あなたの父の
預言者たちや、母の預言者たちのところに行かれたら
よいでしょう。」すると、イスラエルの王は彼に言っ
た。「いや、モアブの手に渡すために、この三人の
王を呼び集めたのは、**【主】だ。**」

どこまでも神のせい!!

エリシャは言った。「私が仕えている万軍の**【主】**
は生きておられます。もし私がユダの王ヨシャファテ
の顔を立てるのでなければ、私は決してあなたに目も
留めず、あなたに会うこともしなかったでしょう。」

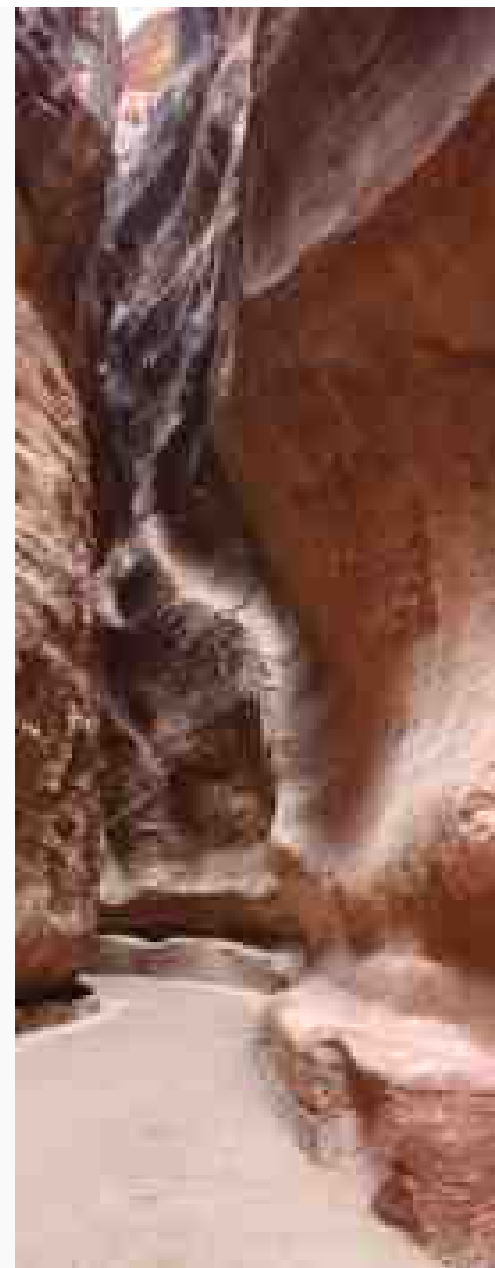


【神の言葉】 Ⅱ 列王記3:15～17

「しかし今、豎琴を弾く者をここに連れて来ててください。」 豎琴を弾く者が豎琴を弾き鳴らすと、【主】の手がエリシャの上に下り、彼は次のように言った。

「【主】はこう言われます。『この涸れた谷にはたくさんの水がたまる。』

【主】がこう言われるからです。『風を見ず、大雨を見なくても、この涸れた谷には水があふれる。あなたがたも、あなたがたの家畜も、動物もこれを飲む。』



【勝利の宣言】 II 列王記3:18～19

「これは【主】の目には小さなことです。主はモアブをあなたがたの手に渡されます。

あなたがたは、城壁のある町々、立派な町々をことごとく打ち破り、すべての良い木を切り倒し、すべての水の源をふさぎ、すべての良い畑を石をもって荒らすでしょう。」



【流れてきた水】 II 列王記3:20～21

朝になって、ささげ物を献げるころ、なんと、水がエドムの方から流れて来て、この地は水で満たされた。

モアブ人はみな、王たちが自分たちを攻めに上って来たことを聞いた。よろいを着けることができる者はすべて呼び集められ、国境の守備に就いた。



【討たれたモアブ人】 II 列王記3:22～24

翌朝早く起きてみると、太陽が水の面を照らしていた。モアブ人は、向こう側の水が血のように赤いを見て*、こう言った。「これは血だ。きっと王たちが切り合って、同士討ちをしたに違いない。さあ今、モアブよ、分捕りに行こう。」

彼らがイスラエルの陣営に攻め入ると、イスラエルは立ってモアブ人を討った。モアブ人はイスラエルの前から逃げた。イスラエルは攻め入って、モアブ人を討った。

* 錯誤させたのも神の御業



【荒廃したモアブの町々】 II 列王記3:25

さらに、彼らは町々を破壊し、すべての良い畑にだれもが石を投げ捨てて石だらけにし*、すべての水の源をふさぎ、すべての良い木を切り倒した。ただキル・ハレセテにある石だけが残ったが、その町も石を投げる者たちが取り囲み、これを打ち破った

*イスラエル同様、モアブも段々畑が主流だった。

石段を崩せば、土が流れて畑は崩壊。

さらに石だらけになってしまう!!



【おぞましい結末】 II 列王記3:26～27

モアブの王は、戦いが自分に不利になっていくのを見て、剣を使う者七百人を引き連れ、エドムの王のところに突き入ろうとしたが、果たせなかった。

そこで、彼は自分に代わって王となる長男を取り、その子を城壁の上で全焼のささげ物として献げた*。このことのゆえに、イスラエル人に対する激しい怒りが起こった。そこでイスラエル人は、そこから引き揚げて、自分の国へ帰って行った。

*恐ろしい人身供養の儀式。偶像礼拝に浸っていたイスラエルは、気がなえてしまったか？



偶像礼拝者に
圧倒された
不信仰のイスラエル



II. エリシャの4つの奇跡

列王記第二 4章

シュネムのあったイスレエル平原

第一の奇跡

【債権者】 II 列王記4:1

預言者の仲間*の妻の一人がエリシャに叫んで言った。「あなたのしもべである私の夫が死にました。ご存じのように、あなたのしもべは【主】を恐れていました。ところが、債権者が来て、私の二人の子どもを自分の奴隷にしようとしています*。」

*エリヤが建てた預言者学校の仲間

➔ギルガルでの出来事か？

*債務奴隷になるのは珍しいことではなかった。

➔律法が生きていれば7年目に解放されるが…



第一の奇跡

【油の壺】 II 列王記4:2

エリシャは彼女に言った。「何をしてあげようか。私に話さない。あなたには、家の中に何かがあるのか。」彼女は答えた。

「はしためには、家の中に何もありません。ただ、**油の壺**一つしかありません*。」

*オリーブ油の壺。生活必需品。

パンに入れたり、調味料としてつけたり、肌塗ったり、医薬品としても用いた。



第一の奇跡

【たくさんのお器】 II 列王記4:3～5

すると、彼は言った。「外に行って、近所の皆から、お器を借りて来なさい。空のお器を。それも、一つや二つではいけません。

家に入ったら、あなたと子どもたちの背後の戸を閉めなさい*。そしてすべてのお器に油を注ぎ入れなさい。いっぱいになったものは、わきに置きなさい。」

そこで、彼女は彼のもとから去って行き、彼女と子どもたちが入った背後の戸を閉めた。そして、子どもたちが次々と自分のところに持って来るお器に油を注ぎ入れた。

* プライベートな奇跡。



求められたのは、
主への個人的信頼

第一の奇跡

【止まった油】 Ⅱ列王記4:6～7

器がどれもいっぱいになったので、彼女は子ども一人に言った。「もっと器を持って来なさい。」その子どもが彼女に、「もう器はありません」と言うと、油は止まった。

彼女が神の人に知らせに行くと、彼は言った。「行ってその油を売り、あなたの負債を払いなさい。その残りで、あなたと子どもたちは暮らしていけます。」

■ 油は聖霊の象徴。油だけが残っていて、油が満たされた。

イスラエルの残れる者への
主の憐れみと慈しみ



第二の奇跡

【シュネムの女】 II 列王記4:8

ある日、エリシャがシュネム*を通りかかると、そこに一人の裕福な女がいて、彼を食事に引き止めた*。それ以来、エリシャはそこを通りかかるたびに、そこに寄って食事をするようになった。

女は夫に言った。「いつも私たちのところに立ち寄って行かれるあの方は、きっと神の聖なる方に違いありません。ですから、屋上に壁のある小さな部屋を作り、あの方のために寝台と机と椅子と燭台を置きましょう。あの方が私たちのところに来られるたびに、そこを使っていただけですから。」

*豊かな穀倉地帯・イズレエル平原にある村

*預言者をよくもてなすのは、信仰者の証し



第二の奇跡 【ゲハジ】 II 列王記4:11～12

ある日、エリシャはそこに来て、
その屋上の部屋に入って横になった。

彼は若者ゲハジ*に言った。

「ここのシュネムの女を呼びなさい。」

ゲハジが呼ぶと、彼女はゲハジの
前に立った。

*“幻の谷”

■ゲハジを仲介に話すエリシャ

➡女性に接する際の当時の礼節



当時の家屋

第二の奇跡

【願いを聞く】 II 列王記4:13

エリシャはゲハジに言った。「彼女にこう伝えなさい。『本当に、あなたはこのように、私たちのことで一生懸命骨折ってくれたが、あなたのために何をしたらよいか。王か軍の長に*、何か話してほしいことでもあるか』と。」彼女はそれにこう答えた。「私は私の民*の間で、幸せに暮らしております。」

*エリシャの影響力。モアブ戦争以来か？

→預言者として頻繁にサマリアを訪問。

*神の民の共同体意識。信仰者の証し。



第二の奇跡

【懐妊の告知】 Ⅱ列王記4:14～16

エリシャが「では、彼女のために何をしたらよいだろうか」と言うと、ゲハジは言った。「彼女には子がなく*、それに、彼女の夫も年をとっています。」

エリシャが、「彼女を呼んで来なさい」と言ったので、ゲハジが彼女を呼ぶと、彼女は入り口のところに立った。エリシャは言った。「来年の今ごろ、あなたは男の子を抱くようになる。」すると彼女は言った。「いいえ、ご主人様。神の人よ、このはしのために偽りを言わないでください。」

*不妊は当時の女性の最大の不幸



主が女の信仰に応え
エリシャに示された

第二の奇跡

【息子の死】 II 列王記4:17～20

しかし、この女は身ごもり、エリシャが彼女に告げたとおり、翌年のちょうどそのころに男の子を産んだ。

その子が大きくなって、ある日、刈り入れをする者たちと一緒にいる、父のところに出て行ったとき、

父親に、「頭が、頭が」と言った。父親は若者に、「この子を母親のところ抱いて行ってくれ」と命じた。

若者はその子を抱き、母親のところ連れて行った。この子は昼まで母親の膝の上に休んでいたが、ついに死んでしまった。



第二の奇跡

【女の決意】 Ⅱ 列王記4:21～23

彼女は屋上に上がって、神の人の寝台にその子を寝かせ、戸を閉めて出て行った。彼女は夫に呼びかけて言った。「どうか、若者一人と、雌ろば一頭を私のために出してください。私は急いで神の人のところに行って、すぐに戻って来ますから。」

すると彼は、「どうして、今日あの人のところに行くのか。新月祭でもなく、安息日でもない*のに」と言ったが、彼女は「かまいません」と答えた。

*宗教行事を守るだけの夫。妻とは対照的な姿。



第二の奇跡

【カルメルへ】 Ⅱ列王記4:24～26

彼女は雌ろばに鞍を置き、若者に命じた。「手綱を引いて進みなさい。私が命じなければ、手綱を緩めてはいけません。」

こうして彼女は出かけて、カルメル山の神の人のところへ行った。神の人は、遠くから彼女を見つけると、若者ゲハジに言った。「見なさい。あのシュネムの女があそこに来ている。」

さあ、走って行って彼女を迎え、言いなさい。
『あなたは無事ですか。あなたのご主人は無事ですか。お子さんは無事ですか』と。」彼女はそれにこう答えた。「無事です。」



第二の奇跡

【すがりつく女】 II 列王記4:27～28

それから彼女は山の上にいる神の人のところに来て、彼の足にすがりついた*。ゲハジが彼女を追い払おうと近寄ると、神の人は言った。「そのままにしておきなさい。彼女の心に悩みがあるのだから。【主】はそれを私に隠し、まだ私に知らせておられないのだ。」

彼女は言った。「私をご主人様に子どもを求めたでしようか。この私にそんな気休めを言わないでくださいと申し上げたではありませんか。」

* 礼節を欠いた行為



第二の奇跡

【命令】 II 列王記4:29

そこでエリシャはゲハジに言った。

「腰に帯を締め*、手に私の杖*を持って行きなさい。
たとえだれかに会っても、あいさつしてはならない*。
たとえだれかがあいさつしても、答えてはならない。
そして、私の杖をあの子の頭の上に置きなさい*。」

*激しく体を動かす時に帯をした。たすきに類似

*権威を示す。預言者エリシャの代理人として。

*使命の緊急性と重大さを示すこと。

*神への全権委任の表明。子の運命を主に託す。

すべてを主に
委ねたエリシャ



第二の奇跡

【ゲハジの先遣】 II 列王記4:31

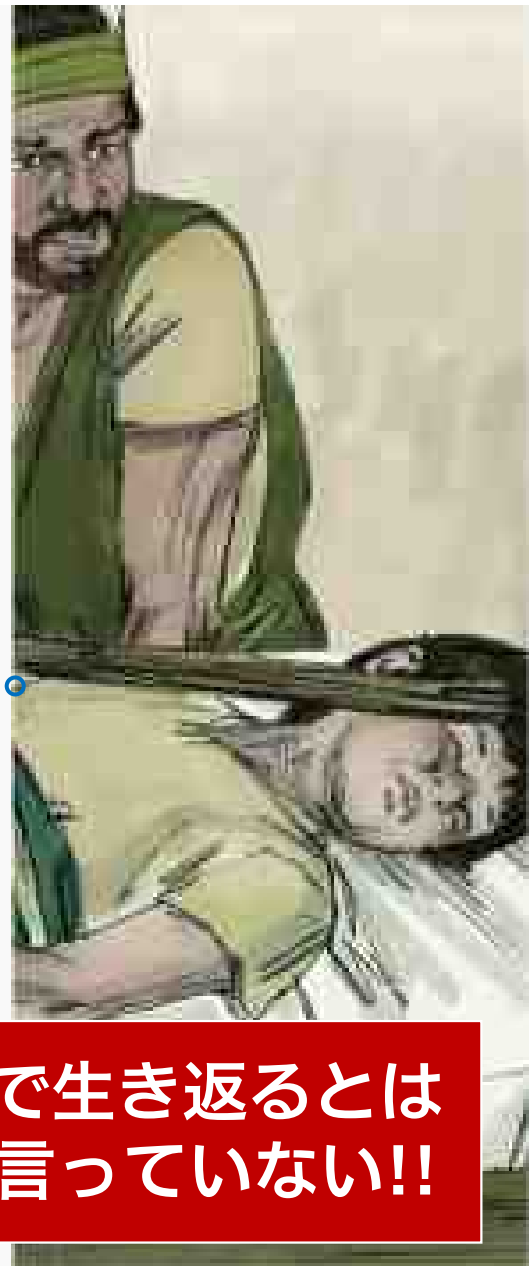
その子の母親は言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたを離しません*。」エリシャは立ち上がり、彼女の後について行った。

ゲハジは二人より先に行って、その杖を子どもの頭の上に置いたが、何の声もなく、何の応答もなかった。そこで引き返してエリシャに会い、「子どもは目を覚ましませんでした*」と報告した。

*ひたすら主にすがった女

*人の期待は、神の意図とは食い違うのが常

それで生き返るとは
誰も言っていない!!



第二の奇跡

【子どもの床で】 II 列王記4:32～34

エリシャが家に着くと、その子は寝台の上に死んで横たわっていた。エリシャは中に入り、戸を閉めて、二人だけになって【主】に祈った*。

それから、寝台の上に上がり、その子の上に身を伏せ、自分の口をその子の口の上に、自分の目をその子の目の上に、自分の両手をその子の両手の上に重ねて、その子の上に身をかがめた。すると、その子のからだは温かくなってきた。

*エリシャの行動はすべて主に聴き従った結果。

■すべての奇跡は一度きり。再現性はない。

エリヤと似ていても
違う。真似は無意味



第二の奇跡

【よみがえり】 Ⅱ列王記4:35

それからエリシャは降りて、部屋の中をあちらこちらと歩き回り*、また寝台の上に上がり、子どもの上に身をかがめると、子どもは七回*くしゃみをして目を開けた。

*奇跡とは、次元を超越した超自然的介入。

神の奇跡に人に理解できる法則性などない。

*完全数。示されたのは神の御業の完全さ。

■人が癒やされよと叫んでも奇跡は起きない。

癒やしの奇跡に人が介入する余地はない。



第二の奇跡

【礼拝】 Ⅱ列王記4:36～37

彼はゲハジを呼んで、「あのシュネムの女を呼んで来なさい」と言った。ゲハジが彼女を呼んだので、彼女はエリシャのところに来た。そこでエリシャは、「あなたの子どもを抱き上げなさい」と言った。

彼女は入って来て彼の足もとにひれ伏し、**地にひれ伏した***。そして、子どもを抱き上げて出て行った。

*神の代理人である預言者エリシャの前で
全知全能の唯一の神に礼拝した。



偶像礼拝の北王国
その中心地イズレエルで
主の御業が証しされた

第三の奇跡

【煮物】 Ⅱ 列王記4:38～39

エリシャがギルガルに帰って来たとき、この地に飢饉が起こった*。預言者の仲間たちが彼の前に座っていたので、彼は若者に命じた。「大きな釜を火にかけ、預言者の仲間たちのために煮物を作りなさい。」

彼らの一人が食用の草を摘みに野に出て行くと、野生のつる草を見つけたので、そのつるから野生の瓜を前掛けにいっぱい取って帰って来た。そして、彼はそれを煮物の釜の中に刻んで入れた。彼らはそれが何であるかを知らなかった。

* 約束の地を飢饉が襲うのは、民の不信仰への裁き。



ソドムのリンゴ

第三の奇跡

【除かれた毒】 Ⅱ 列王記4:40～41

彼らは皆に食べさせようとして、これをよそった。皆はその煮物を口にするやいなや、こう叫んだ。「神の人よ、釜の中に毒が入っています。」彼らは食べることができなかった。

エリシャは言った。「では、麦粉を持って来なさい。」彼はそれを釜に投げ入れて言った。「これをよそって、この人たちに食べさせなさい。」そのときにはもう、釜の中には悪い物はなくなっていた。

- 不信仰という霊的飢饉のただ中で、偶像礼拝という蔓延する毒を取り除くのが、エリシャの使命。



第四の奇跡

【初穂のパン】 II 列王記4:42

ある人がバアル・シャリシャ*から、初穂のパンである大麦のパン*二十個と、新穀一袋を、神の人のところに持って来た。神の人は「この人たちに与えて食べさせなさい」と命じた。

*“おおいなるバアル” …偶像礼拝の町？

*過越祭のささげものを持ってきた？

➡ならば当然、種なしパンだろう

本来は、エルサレム神殿で献げるべきだが、北王国から南王国には行けなかっただろう。



第四の奇跡

【満たされたパン】 II 列王記4:43~44

彼の召使いは、「これだけで、どうして百人もの人に分けられるでしょうか」と言った。しかし、エリシャは言った。「この人たちに与えて食べさせなさい。【主】はこう言われる。『彼らは食べて残すだろう。』」

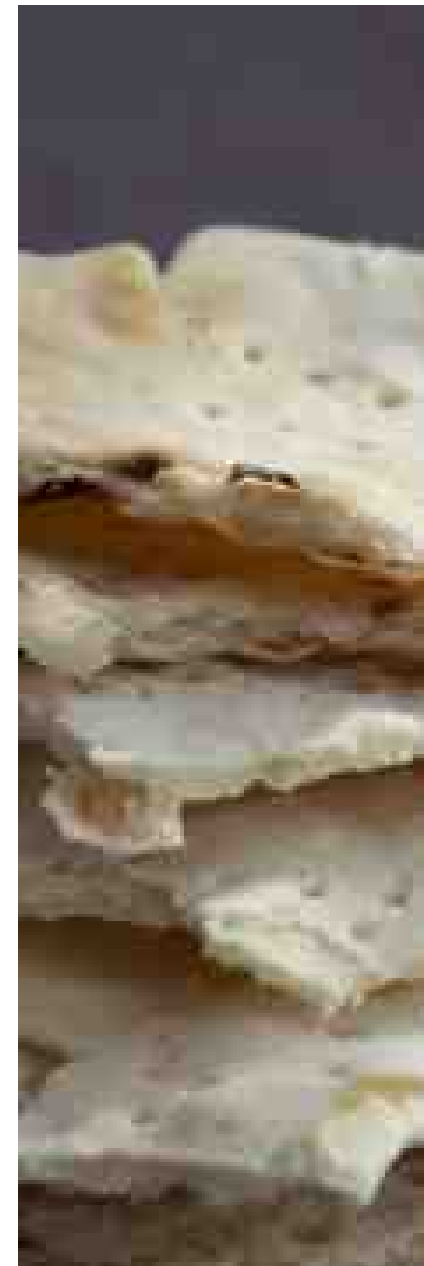
そこで、召使いが彼らに配ると、彼らは食べて残した。【主】のことばのとおりであった。

* 神の言葉が、神の民を満たし尽くす時は来る。

➔ 預言者の究極的な役割は、神のメシアを示すこと。

■ イエスは、パン5つと魚2匹を5千人に食べさせた。

過越のパンが示すのは、贖いのメシアご自身。





Ⅲ. まとめと適用

メシアの王国の幻を抱こう

イズレエル平原

【イスラエルの滅びを予告するようなモアブの戦い】

■ 敗北し、畑や木々、水源までも破壊されたモアブ。

忌まわしい人身供養を前にしても、悔い改めなかったイスラエル。

後に、モアブが行った人身供養をイスラエルも行い、滅びを招く。

「さあ、今度はわたしがあなたがたに知らせよう。わたしが、わがぶどう畑に対してすることを。わたしはその垣を取り払い、荒れすたれるに任せ、その石垣を崩して、踏みつけられるままにする。わたしはこれを滅びるままにしておく。枝は下ろされず、草は刈られず、茨やおどろが生い茂る。わたしは雨雲に命じて、この上に雨を降らせないようにする。イザヤ書5:5～6」

【エリシャの奇跡がイスラエルに示したこと】

- モアブとの戦争で、王と宮廷の信頼を得たエリシャは、イスラエルの各地を巡回しながら、預言者の働きを行っていった。
- エリヤから、エリシャに継承された、三つの役割
 - ① イスラエルから、偶像礼拝を取り除く。
 - ② イスラエルを神に立ち返らせる。
 - ③ イスラエルの残れる者に、律法を教え育む。
- エリシャに現れた奇跡は、エリシャが語る神の言葉を保証するもの。

奇跡の強調は、
的外れな
未熟な信仰

常に重要なのは奇跡ではなく、語られた神の言葉の正統性!!

【エリシャの奇跡が示すメシアの影】

①油の奇跡

➡真実の油注がれた方・メシアが、信じる者を**聖霊**で満たす。

②よみがえりの奇跡

➡メシアも数多くのよみがえりの奇跡を起こした。

メシアの究極の奇跡・しるしは、ご自身の**復活**。

③毒が消される奇跡

➡すべての**毒麦(偽の信者)**を取り除くのは、**再臨のメシア**

④パンの奇跡

➡5千人、3千人の食事は、イスラエルと異邦人の信仰者すべてが**神の言葉**に満たされ尽くす、**メシアの王国**の到来を示すもの。

【メシアの王国の幻を抱こう】

- 預言者が告げるゴールが、メシアの王国の実現(千年王国)。
- メシアの王国の実現によって起きること
 - ① すべての敵と不信仰者が裁かれる。
 - ② 悔い改めたイスラエルが祝福される。
 - ③ すべての人が神の言葉を求め、神の言葉に満たされる。
- 滅びにひた走る、南北時代の究極の希望は、メシアの王国の到来。
メシアの王国は、再臨のメシア、主イエスによって実現される。

終わりの時代の希望も再臨のメシアにある!!

【私たちが抱くべきは、再臨のメシアの希望、携挙の救い】

- メシアの王国を求める預言者の土台は、変わらぬ神の律法だった。主イエスを待ち望むクリスチャンの土台は、キリストの愛の律法。
➔大きな文脈の上に重ねる学びが、本当の平安をもたらす。
- 混沌と困難のさなかでも、エリシャの周りにはいつも平安があった。時代の流れに左右されない、主のご計画への理解を深めていこう。
- 預言者に示された幻のメシアを、一人の人として知らされている。この計り知れない恵みを、さらに味わい尽くして行こう。

ひとときも主から目を離さず、主に食らいつついていこう

ヨエル書 2章28～32節

イスラエルの民族的悔い改め
メシアによる裁きと救い
メシアによる王国の建国

ペンテコステに、使徒ペテロが引用した聖句
聖霊降臨は、イスラエルの悔い改めの序章
示されたのは、私たちが生かされている、この教会時代のゴール

ヨエル書 2章28～29節

その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。

あなたがたの息子や娘は預言し、

老人は夢を見、青年は幻を見る。

その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ。

ヨエル書 2章30～31節

わたしは天と地に、しるしを現れさせる。

それは血と火と煙の柱。

【主】の大いなる恐るべき日が来る前に、
太陽は闇に、月は血に変わる。

ヨエル書 2章32節

しかし、【主】の御名を呼び求める者はみな救われる。

【主】が言ったように、

シオンの山、エルサレムには逃れの者がいるからだ。

生き残った者たちのうちに、【主】が呼び出す者がいる。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主イエスの警告(けいこく)どおり、世の闇(やみ)は深まっています。

わたしたちはシュネムの女のように、主よ、あなたにすがりつきます。

どうか、主よ来て、世界を救(すく)ってください。

一つの魂(たましい)を打(う)ち砕(くだ)き、悔(く)い改(あらた)めて

永遠(えいえん)のめぐみにあずかる者としてください。

よき知らせを伝える者として、わたしを遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」